

## ミドリイシ属サンゴ

# 雑種体の産卵初成功

沖縄高専 磯村氏ら 生態解明に期待

【名護】世界で約150種類もの多様性を持つミドリイシ属サンゴの中で、違う種類同士を人工的に卵と精子を交配させて産卵することに沖縄工業高等専門学校



トゲスキミドリイシとサボテンミドリイシの雑種体が産卵する様子(2016年6月、阿嘉島(磯村尚子氏提供))

の磯村尚子准教授ら4人の研究者グループが世界で初めて成功したことを5日、発表した。ミドリイシ属サンゴはどのように種類が分化してきたのかや、雑種体の産卵状況など未解明の部分が大きい。違う種類の掛け合わせで生まれた雑種体が産卵できることを確認できたことは、今後のサンゴの生態解明への貴重な足掛かりとなりそうだ。

今回の研究は磯村准教授のほか、阿嘉島臨海研究所の岩尾研二研究員、琉球大

の守田昌哉准教授、宮崎大の深見裕伸准教授が共同で実施した。研究成果は国際サンゴ礁学会の学術誌に5月20日付で掲載された。

研究では2007年から開始し阿嘉島の近海に生息するミドリイシ属サンゴのうち、遺伝的に近いトゲスキミドリイシとサボテンミドリイシの雑種体を作成した。その上で14、15年には作成した雑種体2種類の卵と精子を交配させるなどして受精や産卵を確認できた。

磯村准教授は「沖縄は世界でもサンゴの多様性が高く、調べるのにつけていく。気候変動でサンゴが減少している。多様性を明らかにしていくチャンスにもなる」としてさらなる解明へ意欲を見せた。